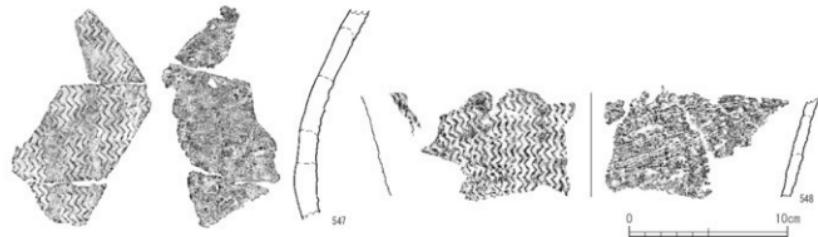
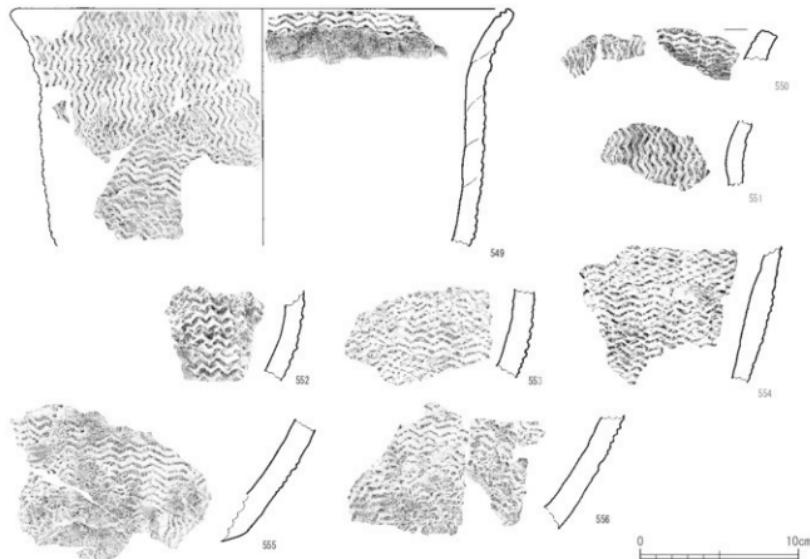


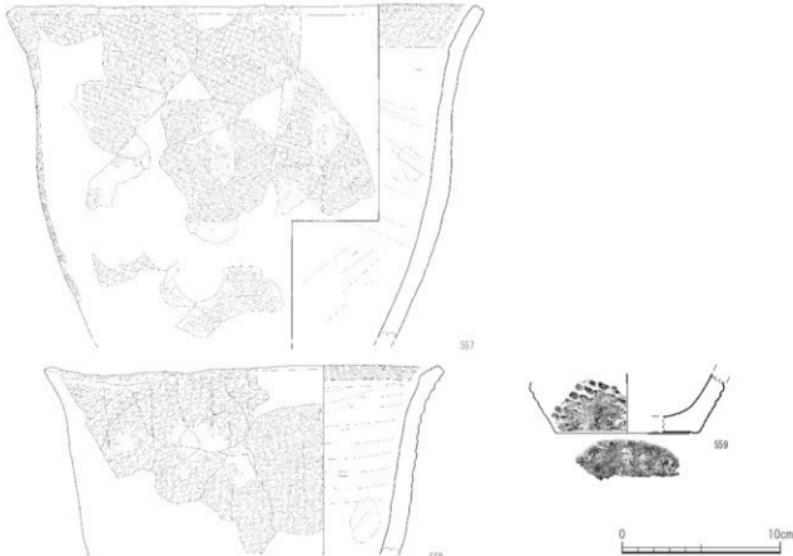
第294図 純文早期土器実測図(80) (6. 122群土器/耳取調査区出土)



第295図 純文早期土器実測図(81) (6. 122群土器/柄木調査区出土)



第296図 純文早期土器実測図(82) (6. 132群土器/耳取調査区出土)



第297図 繩文早期土器実測図 (83) (6. 141群土器/耳取調査区出土)



第298図 縄文早期土器実測図 (84) (6. 141群土器/桐木調査区出土)

第81表 繩文早期土器觀察表 (39) (6群土器-7)

第82表 繩文早期土器觀察表 (40) (6群土器-8)

第6群土器第2類土器(分類記号6.2、第312図～第314図
625～665)

第6群土器第2類土器に属する土器を41点資料化した。

本類土器は、口縁部内面から胴部内面にかけて緩やかに屈曲し、口縁部外側から胴部外側にかけて屈曲せずに緩やかな外反形態を呈する土器を指標とする。また本類土器は、文様構成などの施文の特徴を始め他の諸属性における分類を行うことができず、1種類に限られるという特徴がある。

第6群土器第2類土器第1タイプ土器(分類記号6.21、第312図～第314図625～665)

器形的特徴としては、口縁形態は平口縁を呈し、口縁部は外反し、胴部中央部でほとんど膨らまずに、ほぼ直線的な胴部形態を呈することが挙げられる。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く、形態は不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には横円押型文を施す第1種土器(分類記号6.211、第312・313図625～647)と、山形押型文を施す第2種土器(分類記号6.212、第314図648～665)がある。

調整方法としては、内器面では、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整あるいは粗いナデ調整を行なう土器が主体を占めることが挙げられる。また、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては、主に黒雲母や輝石で構成される土器と、主に角閃石や輝石で構成される土器とがあることが指摘できる。特に注目できるのは、2点である。

まず、黒雲母を含む土器が量的に多いことと、胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ、混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

つぎに、粗い粒度の鉱物を含む土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も多いのが特徴である。しかも、胎土中に含まれる量が特に多い土器も多數観られた。また、全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。これらの特徴は、第6群土器第1類土器に比べて対照的な点であり、本類土器の特徴の1つに挙げられる特徴である。

さて、出土分布図から本タイプに属する土器は主に、耳取調査区北側地区的うち、特に耳取調査区G～J・2～7区周辺に集中していること(第309図・第274図～第278図参照)、桐木調査区内では出土が確認できていないことなどが指摘できる。これらの特徴についても胎土中鉱物についての特徴と同様に、第6群土器第1類土器に比べて対照的な点であり、本類土器の特徴の1つに挙げられる。

第6群土器第3類土器(分類記号6.3、第315図～第317図
666～681)

第6群土器第3類土器に属する土器を16点資料化した。

本類土器は、口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲

し、口縁部外側がほぼ直線的形態もしくは緩やかに外に開く形態を呈する土器を指標とする。本類土器は、文様構成などの施文の特徴を始め他の諸属性による分類を行うことができず、第2類土器と同様に1種類に限られるという特徴がある。

第6群土器第3類土器第1タイプ土器(分類記号6.31、第315図～第317図666～681)

器形的特徴としては、口縁形態は平口縁を呈し、口縁部外側から胴部外側にかけてほぼ直線的な形態、もしくは口縁部外側が緩やかに外に開く形態を呈する特徴がある。また口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲し、胴部内面は直線的なになる特徴が指摘できる。さらに本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く、形態は不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが指摘できる。さらに口縁部内面には横位方向の押型文を1条から数条巡らす特徴がある。また本タイプ土器では横円押型文を施す第3種土器(分類記号6.313、第315図666～675)と、山形押型文を施す第4種土器(分類記号6.314、第316・317図676～681)がある。

調整方法としては、第6群土器第2類土器第1タイプ土器と共に通する特徴がある。また、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石、雲母で構成される土器が多く、黒雲母を含む土器は少なかつたことが挙げられる。また、細かい粒度の鉱物が多量に含まれる土器が多数観られたこと、全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。

このように本類土器では、器形的特徴や施文の特徴、調整方法については第6群土器第2類土器と共に通する点の多いことや、また胎土中鉱物のように第6群土器第2類土器とは若干異なる属性があることが指摘できる。

さて、出土分布図から本タイプに属する土器は主に、耳取調査区北側地区的うち、特に耳取調査区E～J・3～6区周辺に集中していること(第310図・第274図～第278図参照)、桐木調査区内では出土が確認できないことが指摘できる。これらのこととも第6群土器第2類土器と共に、注目できる。

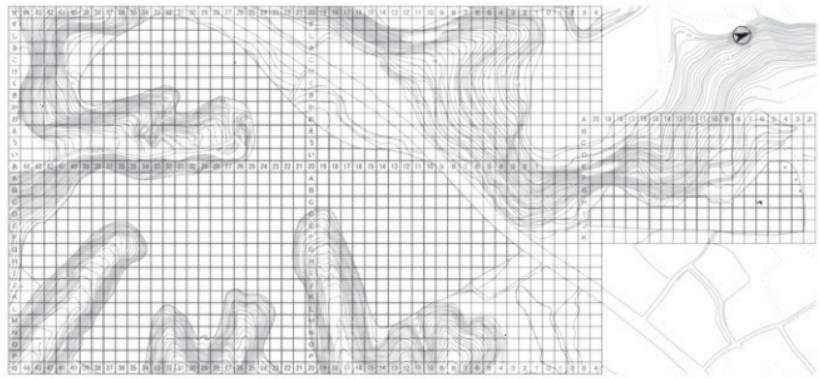
第6群土器第4類土器(分類記号6.4、第322図699～702)

第6群土器第4類土器に属する土器を4点資料化した。

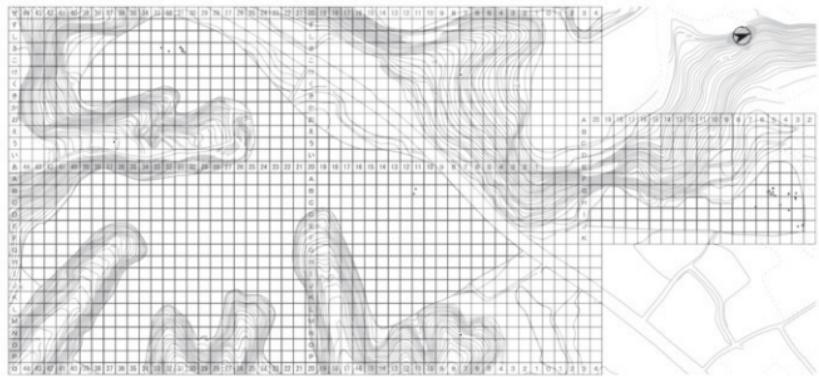
本類土器は、特殊な土器群である。

第322図699、700は小型有文土器である。口縁部から胴部下半部にかけてほぼ直線的な形態を呈し、底部は平底である。施文は外面全面に横位方向の山形押型文。内器面の調整方法はナデ調整。また胎土中鉱物は主に角閃石や輝石、雲母で構成される。特に胎土中に角閃石を多く含む土器が多くあり、混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

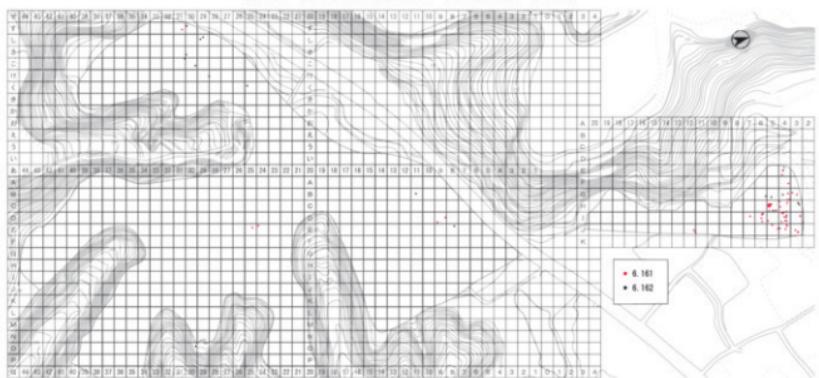
第322図701は、いわゆる「短枝回転文土器」と呼ばれる、木の枝と考えられる工具を回転させ施文した土器の胴部片



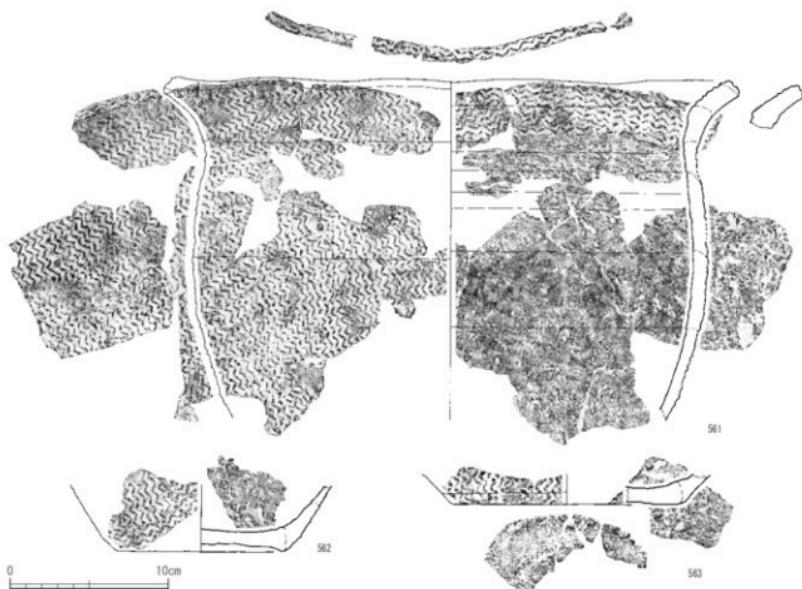
第299図 總文早期土器分布図36 (6.14群土器, 1/4000)



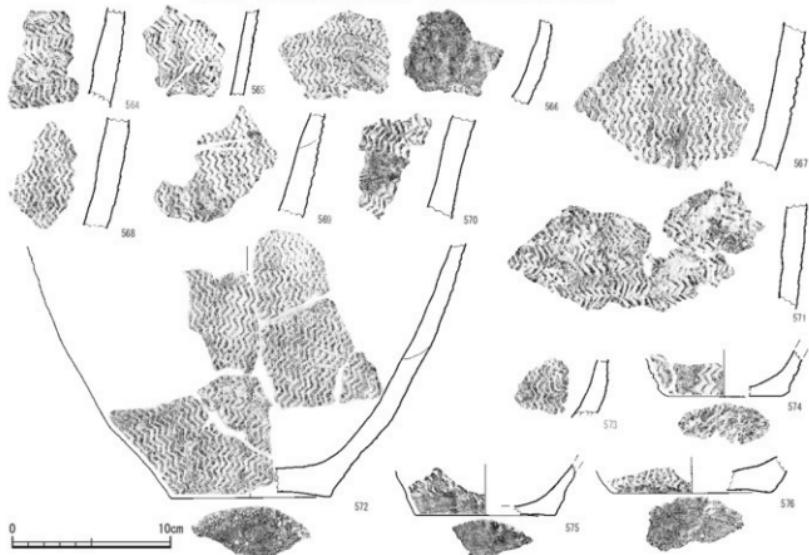
第300図 總文早期土器分布図37 (6.15群土器, 1/4000)



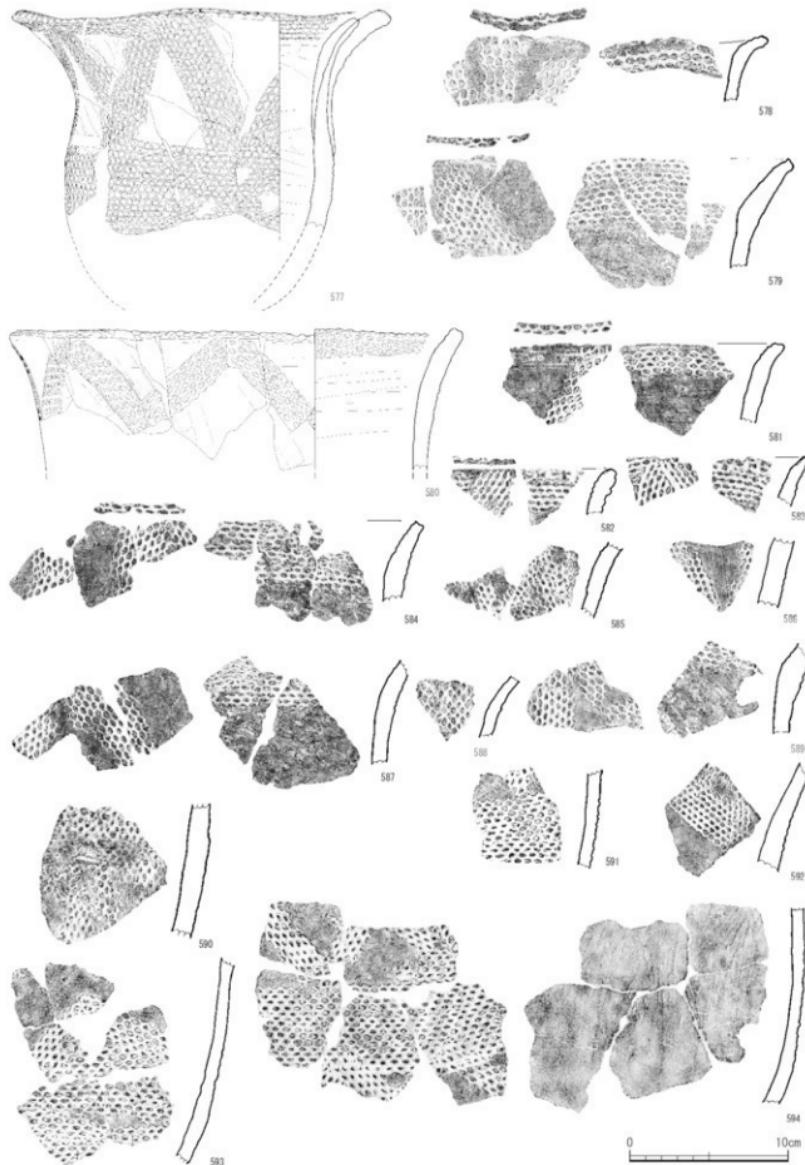
第301図 總文早期土器分布図38 (6.16群土器, 1/4000)



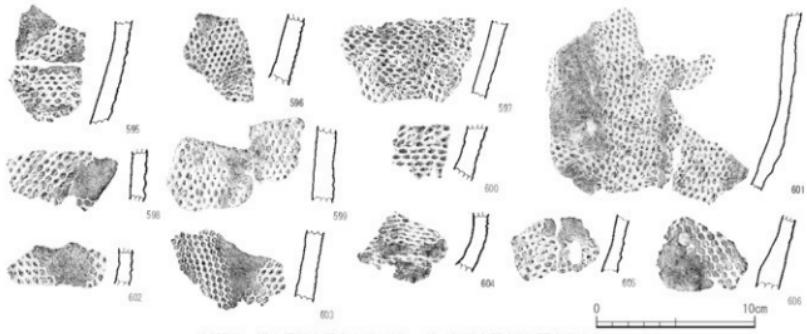
第302図 繩文早期土器実測図 (85) (6.151群土器/桐木調査区出土)



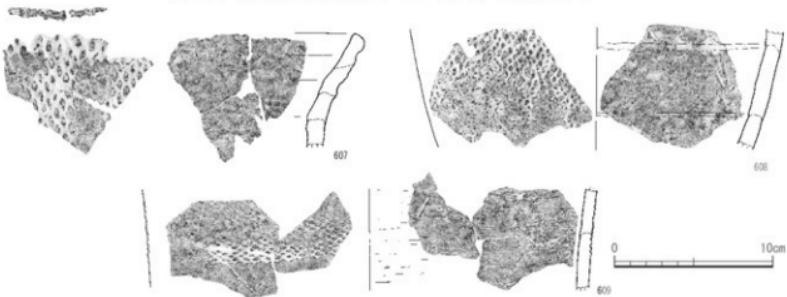
第303図 繩文早期土器実測図 (86) (6.151群土器/耳取調査区出土)



第304図 純文早期土器実測図 (87) (6.161群土器/耳取調査区出土)



第305図 縄文早期土器実測図 (88) (6.161群土器/耳取調査区出土)



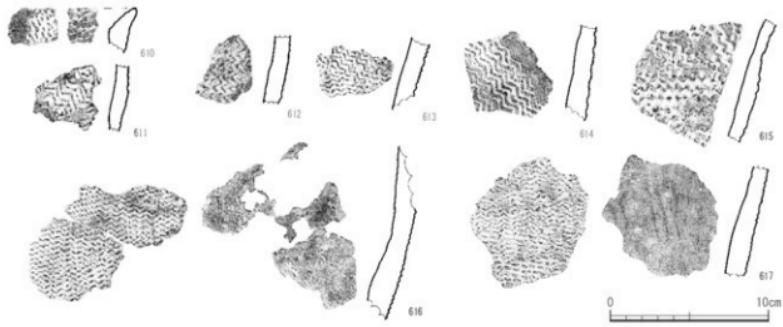
第306図 縄文早期土器実測図 (89) (6.161群土器/耳取調査区出土)

第83表 縄文早期土器観察表 (41) (6群土器-9)

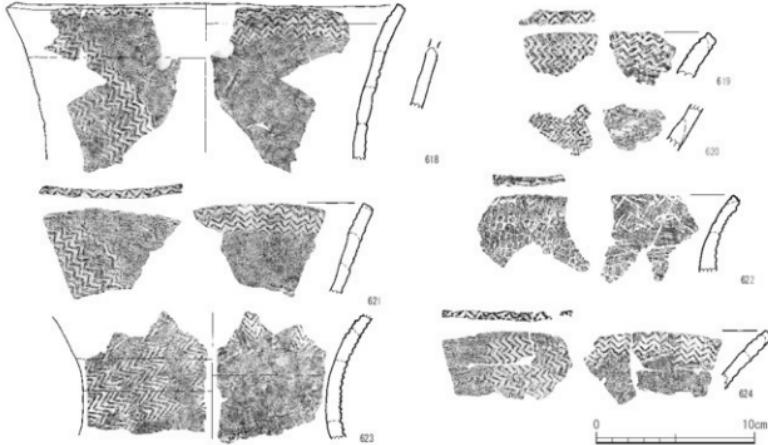
標題	部	分類	鉢上部(マリヤ型)	胎土	調査(内)	調査(外)	備考
201	571	6.151	▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	ハケーハサナナデ -	-	切粒多量
202	572	6.151	▲516(4-4) ▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面、丁平なナ 子	切粒多量	-
303	573	6.151	▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ -	-	切粒多量
304	574	6.151	▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面、工字ナ 子	直面石	-
305	575	6.151	▲516(4-4) ▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面に近い丁平なナ 子	直面、丁平なナ 子	直面材、直面端
306	576	6.151	▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面ナ	-	切粒多量
307	577	6.161	▲516(4-4) ▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ケツリーナ デ	-	切粒多量
308	578	6.161	▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面に近い丁平なナ 子	-	直面材、角面凸
309	579	6.161	▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ	-	切粒多量
310	580	6.161	▲516(4-4) ▲515(4-4) ▲514(4-4) ▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	-	-	切粒多量
309	581	6.161	▲513(4-4) ▲512(4-4) ▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	-	切粒多量
310	582	6.161	▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4) ▲504(4-4) ▲503(4-4) ▲502(4-4) ▲501(4-4) ▲500(4-4)	角、縫、分粒 角粒	-	-	切粒多量

第84表 縄文早期土器観察表 (42) (6群土器-10)

標題	部	分類	鉢上部(マリヤ型)	胎土	調査(内)	調査(外)	備考
304	583	6.161	▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面、切粒	-	-
304	584	6.161	▲510(4-4) ▲509(4-4) ▲508(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ	直面ハバーナデ	-
304	585	6.161	▲511(4-4) ▲510(4-4) ▲509(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ	-	切粒多量
304	586	6.161	▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	587	6.161	▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	588	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	589	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	590	6.161	▲521(4-4) ▲520(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ	-	-
304	591	6.161	▲508(4-4) ▲507(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	切粒多量
304	592	6.161	▲509(4-4) ▲508(4-4) ▲507(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	スピゼー
304	593	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	594	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	595	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4) ▲505(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	596	6.161	▲508(4-4) ▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	-
304	597	6.161	▲522(4-4) ▲521(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハバーナデ	-	-
304	598	6.161	▲508(4-4) ▲507(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ
304	599	6.161	▲521(4-4) ▲520(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ
304	600	6.161	▲507(4-4) ▲506(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ
304	601	6.161	▲522(4-4) ▲521(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ
304	602	6.161	▲508(4-4) ▲507(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ
304	603	6.161	▲509(4-4) ▲508(4-4)	角、縫、分粒 角粒	直面ハサナナデ 直面	直面ハサナナデ 直面	ハケーユビナデ



第307図 縄文早期土器実測図 (90) (6. 162群土器/耳取調査区出土)



第308図 縄文早期土器実測図 (91) (6. 162群土器/桐木調査区出土)

第85表 細文早期土器觀察表 (43) (6群土器-11)

第86表 繩文早期土器觀察表 (44) (6群土器-12)

で、器形は胴部中央部でほとんど膨らまずに、胴部下半で緩やかにすぼまる形態を呈している。調整方法としてはケズリ調整の痕跡をとどめ、最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。胎土中鉛物としては黒雲母と粗い粒度の鉛物で構成される。これらの鉛物は特に胎土中に多く含まれ、混和材として含まれた可能性の高いことが特記できる。

第322図702は小型無文土器である。口縁部外側が緩やかに外に開き、胴部中央部でほとんど膨らまずに、胴部下半で緩やかにすぼまり、底部は若干の上げ底形態を呈する。

第6群土器第5類土器(分類記号6.5、第321図693~698、第326図~第335図703~738)

第6群土器第5類土器に属する土器を42点資料化した。

本類土器は、胴部中央部で球形状に大きく弯曲する形態を呈する土器を指標とする。さらに器形的特徴としては、口縁形態では平口縁もしくは緩やかな波状口縁を呈し、口縁部は外反し、胴部中央部で若干膨らみ、胴部下半部で緩やかにすぼまり、底部は平底あるいは若干の上げ底形態を呈することが、共通した特徴として指摘できる。

本類に属する土器は、文様構成などの施文の特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず、1種類に限られるという特徴が挙げられる。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器(分類記号6.51、第321図693~698、第326図~第335図703~738)

器形的特徴としては、口縁部には大きく緩やかに外反する形態の土器と、短く強く外反する形態の土器とがあるのが特徴である。また、胴部上半部はなで肩形となり、胴部中央部で球形状を呈することが指摘できる。

施文的特徴としては、胴部上半部から胴部下端部にかけて胴部文様帶全面に綴文方向の押型文を施すことが、本タイプ土器分類の最大の指標である。また、本タイプ土器は施文具の違いから下記のように6種に分類できる。

第1種土器は精円押型を施文具とする土器である。

第2種土器は撚糸を施文具とする土器である。

第3種土器は網目撚糸を施文具とする土器である。

第4種土器は山形押型を施文具とする土器である。

第5種土器は繩を施文具とする土器である。

第6種土器は変形撚糸を施文具とする土器である。

以下、種ごとに詳述していく。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第1種土器(分類記号6.511、第321図693~698)

本種土器は、全体形態がうかがえる資料が少ないために、器形的特徴など判明しない土器群である。

本種土器では径の大きさの違いから、中型土器(第321図693~695)、小型土器(第321図696)、特殊小型土器(第321図697、698)に形式分類ができるようであるが、詳細は不明である。

施文的特徴としては胴部上半部から胴部下端部まで胴部文

様帶全面に、精円押型を綴文方向に施す特徴がある。

調整方法としては、最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。また、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉛物としては、主に角閃石を含む土器と、主に黒雲母を含む土器とが挙げられる。また細かい粒度の鉛物を含む土器と、粗い粒度の鉛物を含む土器とがある。

さて、出土分布図から本種に属する土器は主に、桐木調査区西侧地区のうち、特に桐木調査区けへざ~26~31区周辺と、桐木調査区南側地区のうち、特に桐木調査区D-22区とで部分的に出土していることが指摘できる(第323図・第274図~第278図参照)。

ここで注目できるのは、桐木調査区西侧地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は、第6群土器第5類土器第1タイプ土器では、特に第1種土器の他には第5種土器および第6種土器にも共通してみられる特徴である。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第2種土器(分類記号6.512、第326図703~707)

器形的特徴としては、口縁部には短く強く外反する形態の土器(第326図703、704)と、大きく緩やかに外反する形態の土器(第326図705)とがあるのが特徴である。

施文的特徴としては、口唇部文様帶には文様を施さず、口縁部文様帶から胴部文様帶にかけて外面全面に綴文方向の撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の撚糸文を数条巡らす土器(第326図705)と、口縁部内面を無文にする土器(第326図703、704)とがある。

調整方法としては、内器面では、最終調整としてナデ調整を行いう土器が主体を占めることを指摘できる。また、直前調整としては木製工具によるハケ調整や、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉛物としては、主に角閃石や粗い粒度の鉛物で構成される土器が多く観察でき、また黒雲母を含む土器も観られたことが挙げられる。

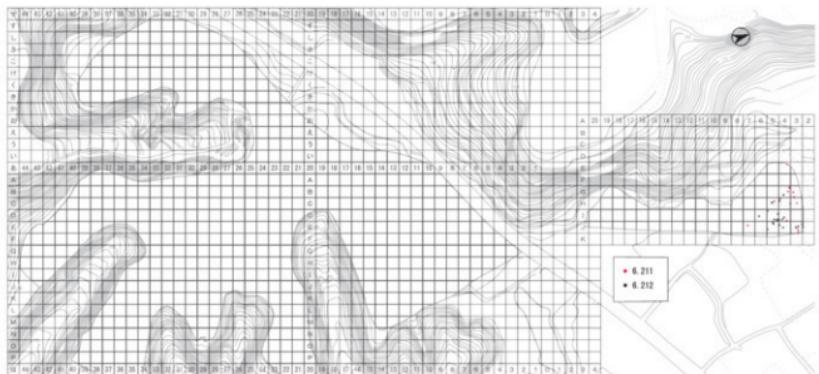
さて、出土分布図から本種に属する土器は主に、桐木調査区西侧地区的うち、特に桐木調査区さ・し~29~32区周辺に集中していることが指摘できる(第324図・第274図~第278図参照)。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第3種土器(分類記号6.513、第327図708~711)

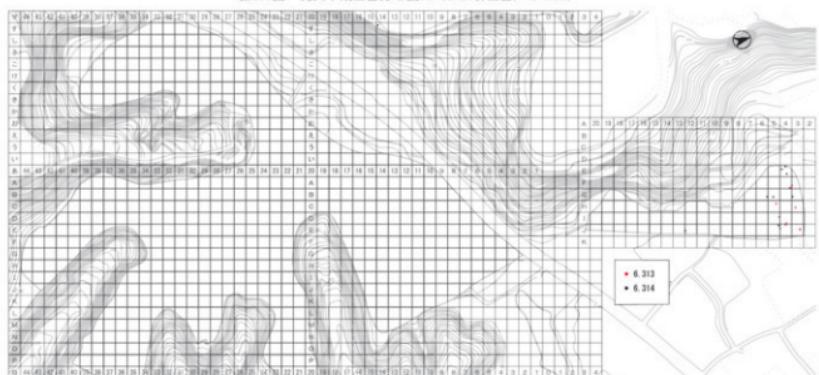
器形的特徴としては、口縁部は緩やかに外反し、胴部は緩やかに底部へ移行するのが特徴である。底部は平底となる特徴がある。

施文的特徴としては、口唇部文様帶には文様を施さず、口縁部文様帶から胴部文様帶にかけて外面全面に綴文方向の網目撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の網目撚糸文を1条巡らすのが特徴である。

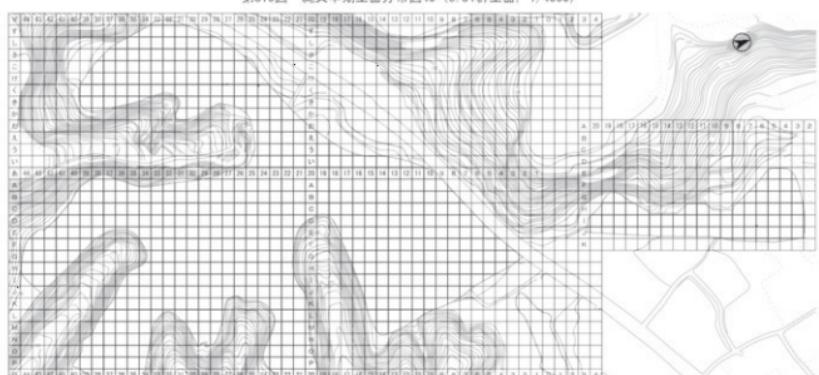
ここで注目できるのは、第327図709である。この土器は胴部下半部の土器片であり、土器片上端部には接合痕が観察で



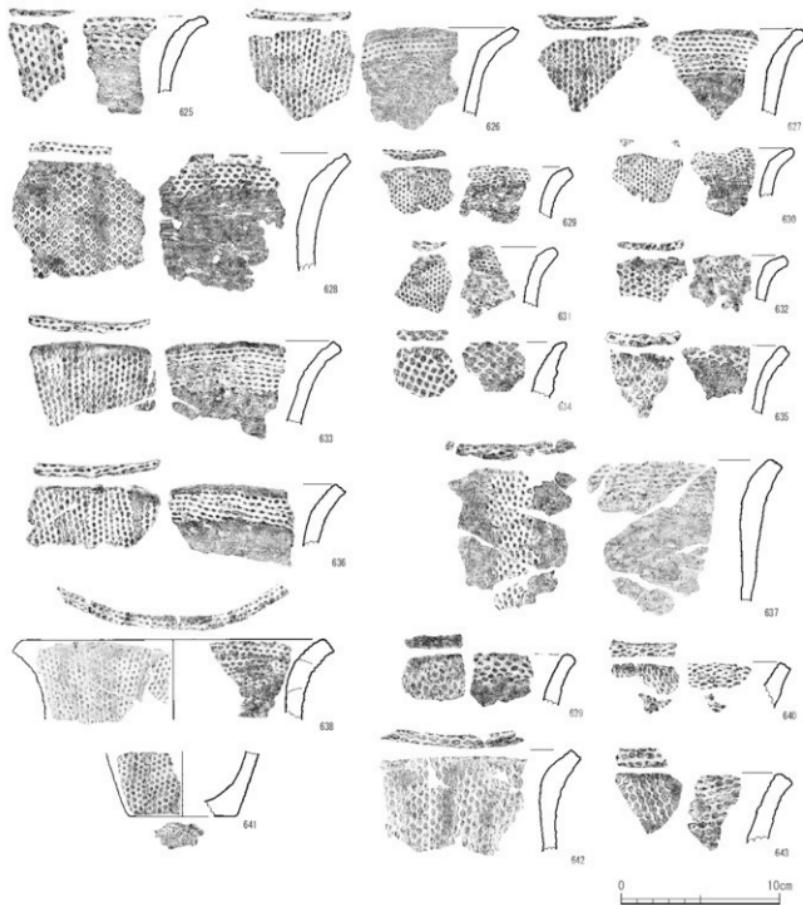
第309図 縄文早期土器分布図39 (6.21群土器, 1/4000)



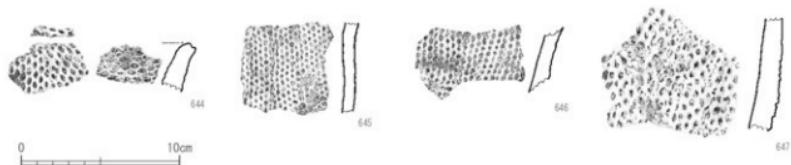
第310図 縄文早期土器分布図40 (6.31群土器, 1/4000)



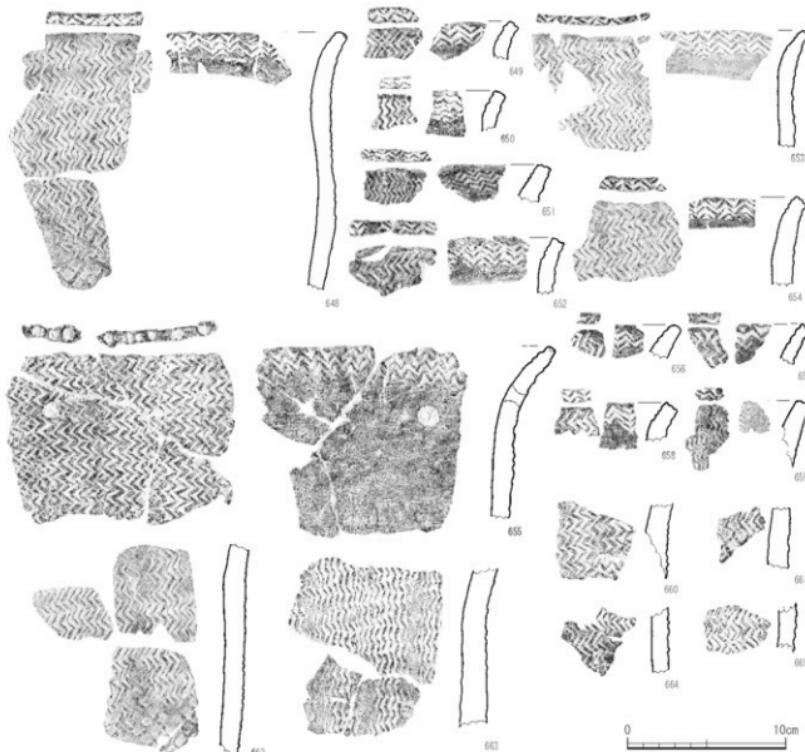
第311図 縄文早期土器分布図41 (6.4群土器, 1/4000)



第312図 縄文早期土器実測図 (92) (6.211群土器/耳取調査区出土)



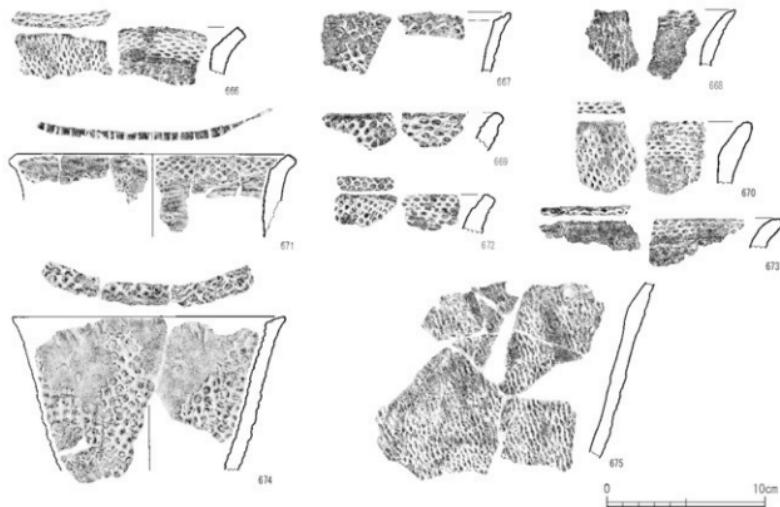
第313図 縄文早期土器実測図 (93) (6.211群土器/耳取調査区出土)



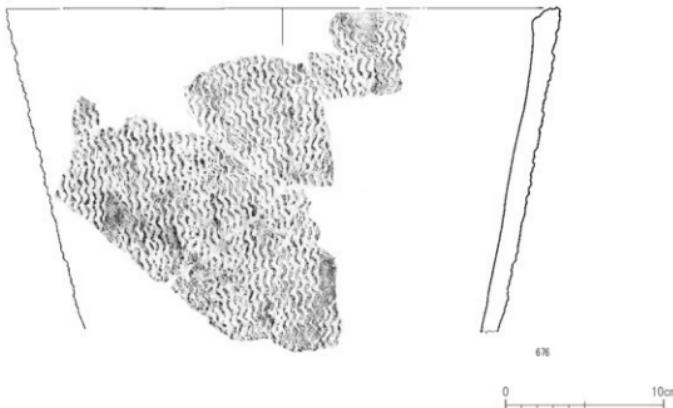
第314図 繩文早期土器実測図 (94) (6. 212群土器/耳取調査区出土)

第87表 繪文早期土器觀察表 (45) (6群土器-13)

第88表 繪文早期土器觀察表 (46) (6群土器-14)



第315図 縄文早期土器実測図 (95) (6.313群土器/耳取調査区出土)



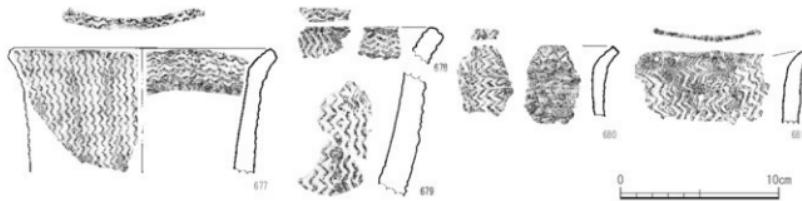
第316図 縄文早期土器実測図 (96) (6.314群土器/耳取調査区出土)

きる。この接合痕部の外面には土器片外面の文様につながる網目燃糸文が施されている。この特徴は、第6群土器では観察できる特徴であり、本種土器が押型文の規範の中で製作されたことを如実に示す好例である。

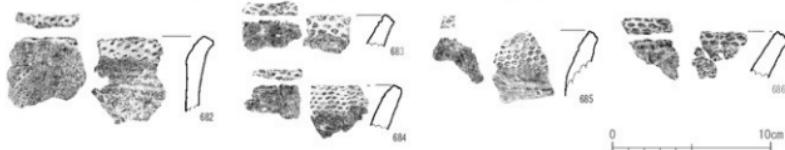
調整方法としては、内器面では、最終調整としてナデ調整もしくは粗いナデ調整を行う土器が主体を占めることを指摘できる。

ここで注目できるのは、外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すことである。この特徴は、第6群土器のなかでは本種土器以外には、第5類土器第1タイプ土器第5種土器と第6種土器のみに認められる特徴である。

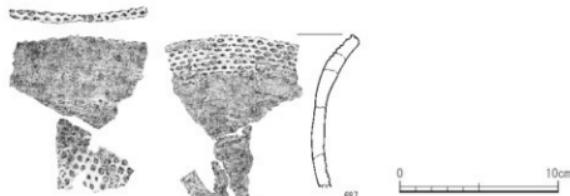
本種土器の胎土中飴物としては、主に角閃石や輝石で構成される土器が多く、また粗い粒度の飴物を含む土器も観られたことが挙げられる。



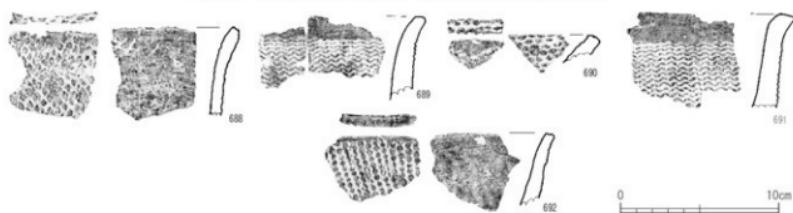
第317図 縄文早期土器実測図 (97) (6.314群土器/耳取調査区出土)



第318図 紋文早期土器窓測図(98) (6.171群土器/耳取調査区出土)



第319図 繪文早期土器実測図(99) (6-171群土器/根本調査区出土)

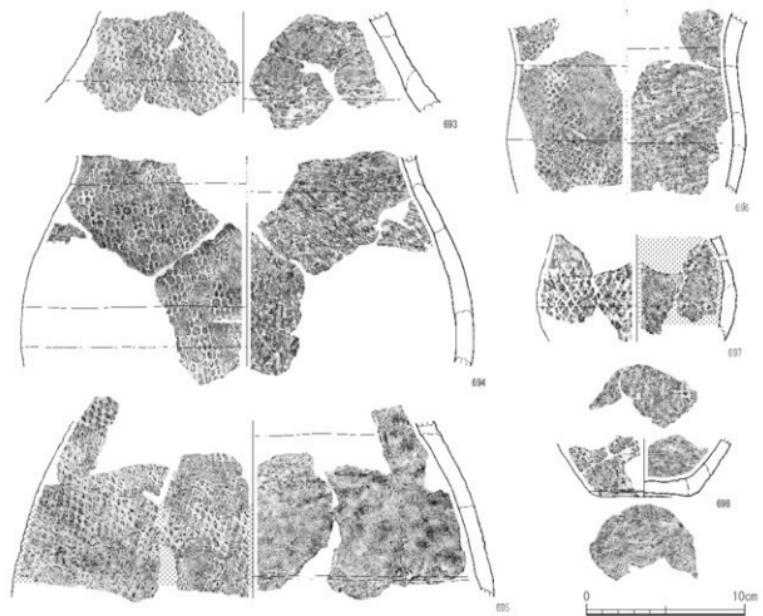


第320図 繩文早期土器実測図（100）（6.171群土器/6.172群土器/耳取調査区出土）

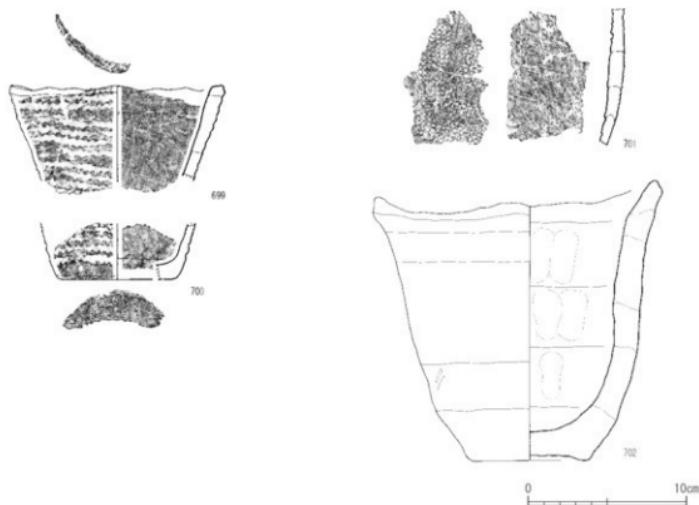
第89表 紅文星期土器觀察表 (47) (6群土器-15)

第90表 級文早期土器觀察表 (48) (6群土器-16)

第90表 鋼・大平工場用耐候鋼板 (400-600t)		規格 (kg)	
規格	品名	規格 (kg)	規格 (kg)
319 904 1.05	▲170(1-5)mm 厚板	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 905 1.05	▲170(1-5)mm 薄板	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 906 1.05	▲112(1-5)mm 薄板	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 907 1.05	▲80(1-5)mm 薄板	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 908 1.05	▲80(5-10)mm 薄板	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 909 1.10	▲949(4-6)mm 丸、角、箱形	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 910 1.10	▲1041(4-6)mm 丸、角、箱形	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 911 1.10	▲1064(4-6)mm 丸、角、箱形	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 912 1.10	▲1066(4-6)mm 丸、角、箱形	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)
319 913 1.10	▲1422(1-10)mm 規格 (厚さ)	規格 (厚さ) 規格 (幅)	規格 (kg)



第321図 純文早期土器実測図 (101) (6.511群土器/桐木調査区出土)



第322図 純文早期土器実測図 (102) (6.4群土器/桐木/耳取調査区出土)

さて、出土分布図から本種に属する土器は主に、桐木調査区西侧地区的うち、特に桐木調査区 \sim 26~30区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第324図・第274図~第278図参照)。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第4種土器(分類記号6.514、第328図712・713)

器形的特徴としては、口縁部が大きく外反し、胴部上半部に屈曲部があるのが特徴である。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く、形態は不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の山形押型文を施し、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に綱位方向の山形押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の山形押型文を巡らるのが特徴である。

調整方法としては、内器面では、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行う土器であることが挙げられる。

本種土器の胎土中鉱物としては、主に輝石や雲母、粗い粒度の鉱物で構成されることが指摘できる。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第5種土器(分類記号6.515、第329、330図714~721)

器形的特徴としては、口縁部が短く強く外反する形態の土器(第329図714、716)と、短く緩やかに外反する形態の土器(第330図718)とがあるのが特徴である。底部形態については、接合資料がないため、詳細は不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向に綱文を施し、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に綱位方向の綱文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の綱文を1条巡らす土器(第329図714、716)と、口縁部内面に無文にする土器(第330図718)とがある。

調整方法としては、内器面では、最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また、直前調整としては木製工具によるハケ調整や箒ナデ調整あるいはケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

また、第3種土器の項で先述したように本種土器においても、外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石で構成される土器が多く、また粗い粒度の鉱物を含む土器や細かい粒度の鉱物で構成される土器も観られたことが挙げられる。

さて、出土分布図から本種に属する土器は主に、桐木調査区西侧地区的うち、特に桐木調査区 \sim 29~33区周辺と、桐木調査区南側地区的うち、特に桐木調査区C・D-23区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図~第278図参照)。

第6群土器第5類土器第1タイプ土器第6種土器(分類記号6.516、第332図~335図722~738)

器形的特徴としては、口縁部が大きく緩やかに外反する

形態の土器(第333図725、第334図726、727)と、直線的に外に開く形態の土器(第334図728、730~732)とがあるのが特徴である。また、胴部下半部では丸味をもちながらすぼまる形態を呈する土器が特に注目できる。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には文様を施さず、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向および斜位方向の変形捺糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面は無文にする土器である。

調整方法としては、内器面では、最終調整としてナデ調整および丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また、直前調整としては木製工具による横方向や斜方向のハケ調整や、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。また、第3種土器や第5種土器の項で先述したように本種土器においても、外器面や内器面とともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石で構成される土器や、主に輝石・雲母で構成される土器が多く、また細かい粒度の鉱物を多く含む土器も観られたことが挙げられる。

さて、出土分布図から本種に属する土器は主に、桐木調査区西侧地区的うち、特に桐木調査区 \sim 24~28区周辺と、桐木調査区南側地区的うち、特に桐木調査区H・I-34区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図~第278図参照)。ここで示した桐木調査区西侧地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は、先述したように第1種土器や第5種土器にも共通してみられる特徴である。

特に注目できるのは、第334図726である。この土器には口縁部下端から胴部上端にかけて補修孔と考えられる孔が2つ並んで穿たれている。その間隔は心心距離で32mmを測る。

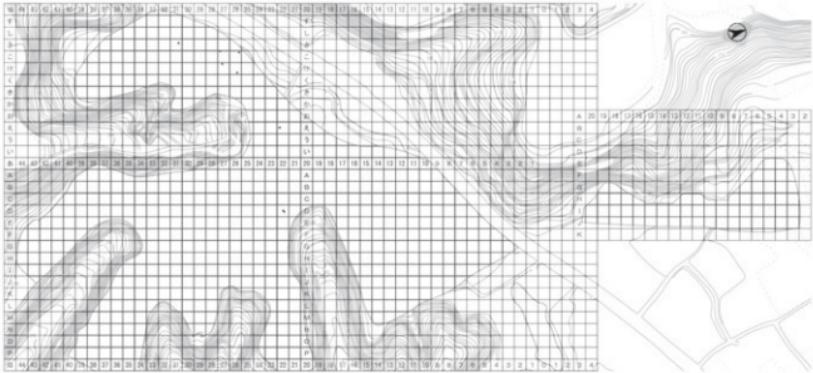
第6群土器第6類土器(分類記号6.6、第339・340図739~746)

第6群土器第6類土器に属する土器を8点資料化した。

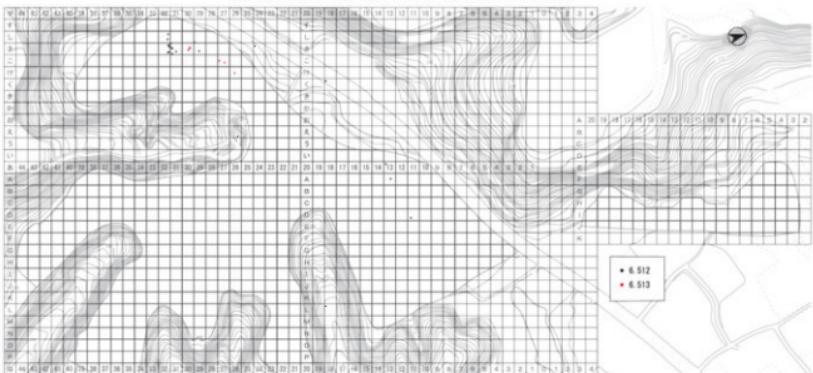
本種土器は、口唇部上端部が内傾する平坦面を作出する土器を指標とする。また、文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず、1種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては、口縁形態は平口縁を呈し、口縁部は若干内寄り、口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。また、胴部は直線的にすぼまるのが特徴である。底部形態は平底となる。

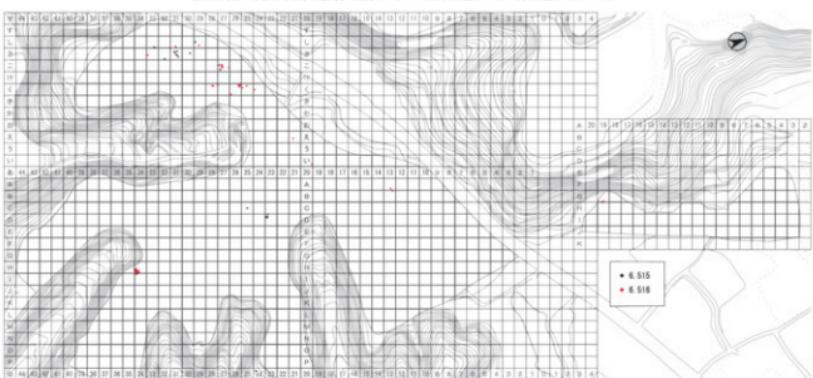
施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向に押型文を施し、口縁部文様帯には横位方向に押型文を1条施すのが特徴である。また、胴部文様帯には胴部下端部にかけて全面にわたり、横位方向に押型文を施す土器(第339図741~744)と、綱位方向に押型文を施す土器(第339図739、740、742)とに分けられることが指摘できる。また本タイプ土器では、山形押型文を施す第1種土器(分類記号6.601、第339図739、740、742)と、横円押型文を施す第2種土器(分類記号6.602、第339・340図741、743~746)との2種類の土器がある。



第323図 線文早期土器分布図42 (6.511群土器, 1/4000)



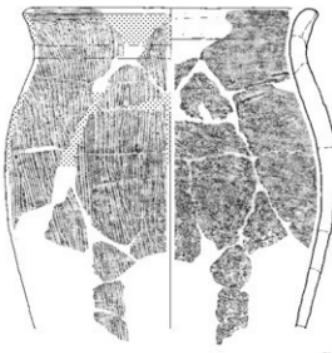
第324図 線文早期土器分布図43 (6.512群土器/6.513群土器, 1/4000)



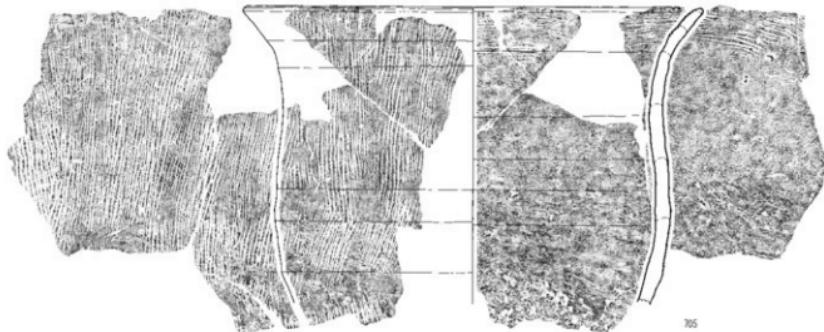
第325図 線文早期土器分布図44 (6.515群土器/6.516群土器, 1/4000)



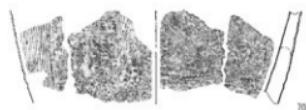
703



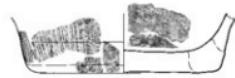
704



705



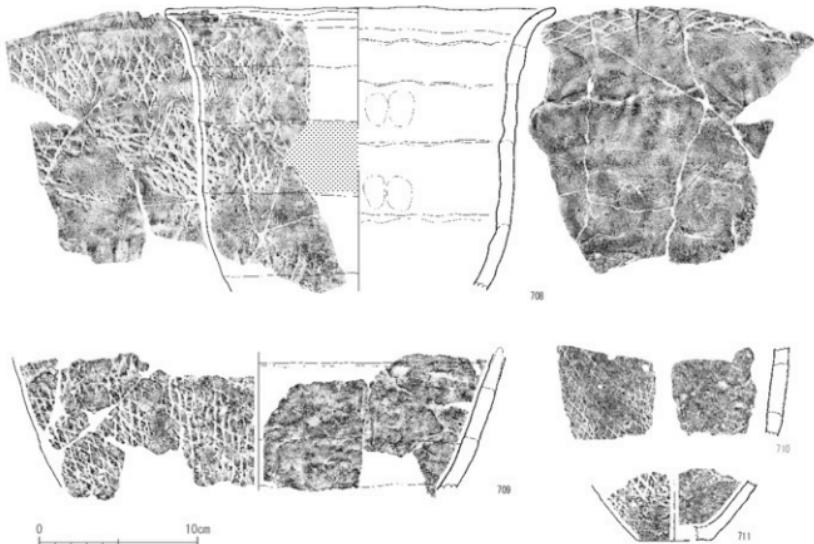
706



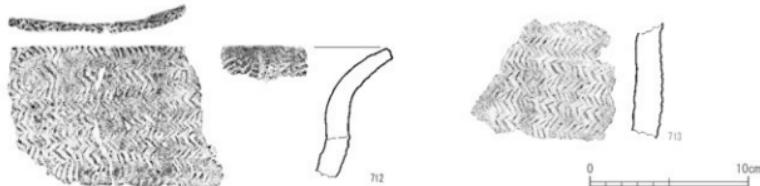
707



第326図 縄文早期土器実測図 (103) (6.512群土器/根木調査区出土)



第327図 純文早期土器実測図(104) (6.513群土器/桜木調査区出土)



第328図 純文早期土器実測図(105) (6.514群土器/耳取調査区出土)

第91表 純文早期土器観察表(49) (6群土器-17)

編號	基盤	分類	數(上段/下段)	胎土	調型(内)	調型(外)	備考
201 683	6.511	●	1(1-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 684	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、葉、砂粒	複数ノズル-長いナデ 複数ノズル-長いナデ	-	
201 685	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 686	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 687	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 688	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 689	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 690	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 691	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 692	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 693	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 694	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 695	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 696	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 697	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
201 698	6.511	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	-	
202 699	6.4	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角	ナデ	ナデ	
202 700	6.4	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角	ナデ	ナデ	
202 701	6.4	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角	ナデ	ナデ	
202 702	6.4	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角	ナデ	ナデ	
202 703	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒、角、角	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯

第92表 純文早期土器観察表(50) (6群土器-18)

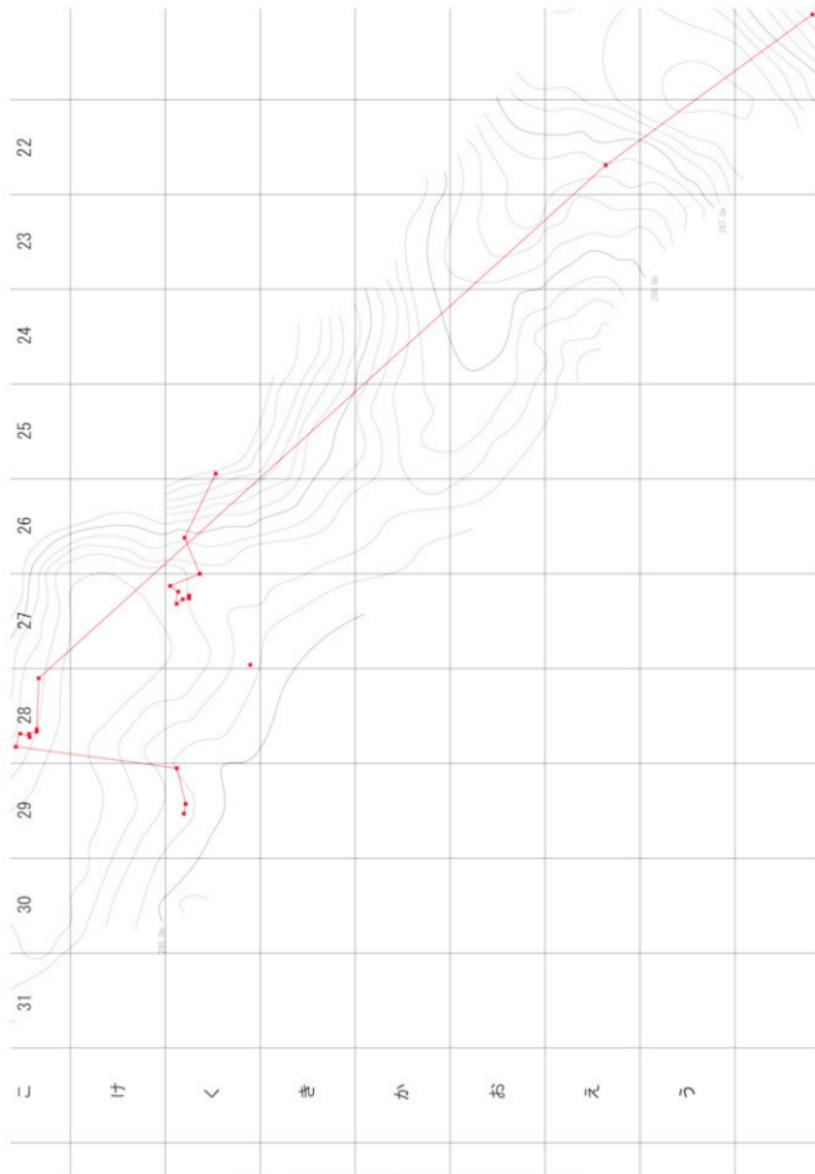
編號	基盤	分類	數(上段/下段)	胎土	調型(内)	調型(外)	備考
201 704	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒、角	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 705	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 706	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 707	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角	ナデ	ナデ	
201 708	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 709	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 710	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 711	6.512	●	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 712	6.514	▲	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯
201 713	6.514	▲	1(1-2-1)/1(1-1)	角、砂粒	複数ノズル-長いナデ	複数ノズル-長いナデ	内面スス付帯



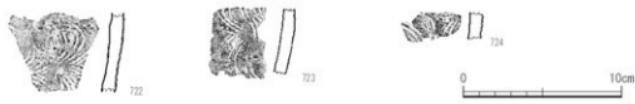
第329図 縄文早期土器実測図 (106) (6.515群土器/桐木調査区出土)



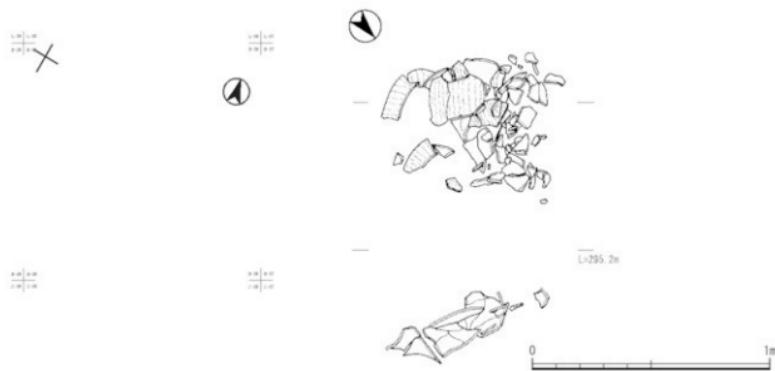
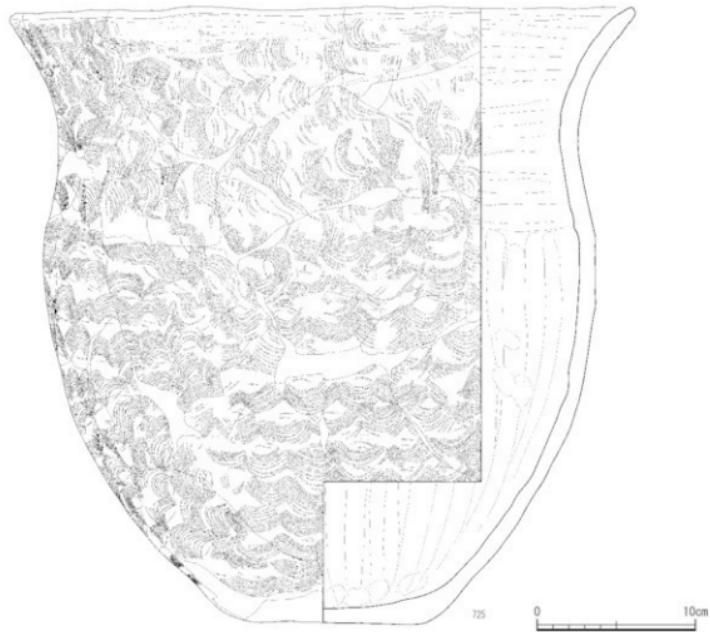
第330図 縄文早期土器実測図 (107) (6.515群土器/桐木調査区出土)



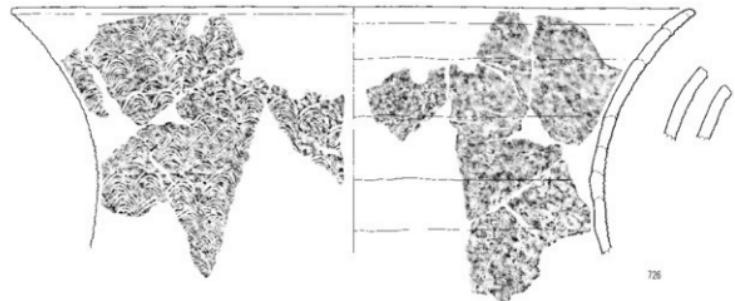
第331図 縄文早期土器分布図45 (第6. 516群土器, 1/500)



第332図 縄文早期土器実測図 (108) (6.516群土器/耳取調査区出土)



第333図 縄文早期土器実測図 (109) (6.516群土器/桐木調査区出土) / (725) 土器出土状況図

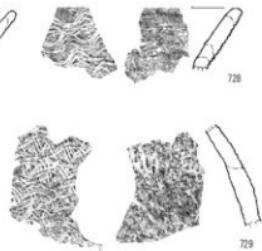


726



727

728

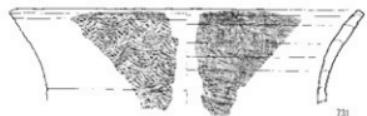


729

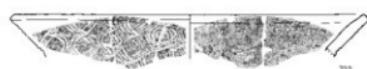
729



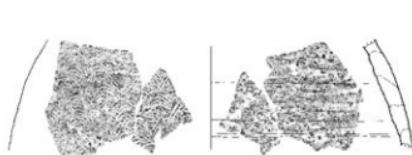
730



731



732



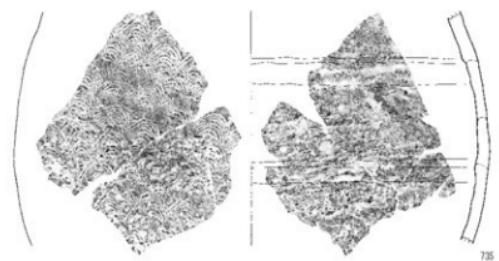
733



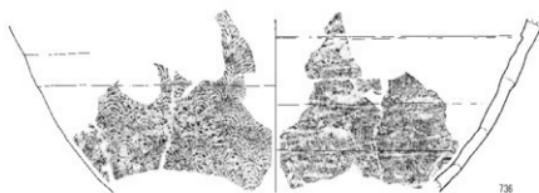
734

0 10cm

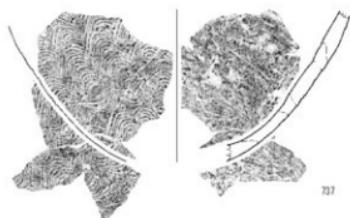
第334図 純文早期土器実測図 (110) (6.516群土器/桐木調査区出土)



735



736



737



738

0 10cm

第335図 縄文早期土器実測図 (111) (6.516群土器/根木調査区出土)

第93表 縄文早期土器觀察表 (51) (6群土器-19)

調整方法としては、内器面では、最終調整として木製工具によるハケ調整の後に、丁寧なナデ調整を行う土器が多数を占めることが挙げられる。最終調整としてミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器や、直前調整としてケズリ痕跡が観られる土器も少量見受けられることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に黒雲母や輝石などからなる土器が多数観られた。特に胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ、混和材として含ませた可能性の高いことが特記できることと、粗い粒度の鉱物が含まれる土器が多かったことが、特徴として挙げられる。

さて、出土分布図から本タイプ土器は主に、桐木調査区北側地区のうち、特に、桐木調査区B～E～8～13区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第336図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは、器形的特徴や施文的特徴、調整方法、本類土器の胎土中鉱物などの諸属性については、第4群土器第1類土器や第2類土器などの特徴と共通する点を数多く含んでおり、第6群土器第6類土器と第4群土器第1類土器や第2類土器などとの共時性を含めた関連性について、今後注意を要する土器群である。

第94表 縱文早期土器觀察表 (52) (6群土器-20)

第6群土器第7類土器(分類記号6.7. 第341・342図747~759)

第6群土器第7類土器に属する土器を13点資料化した。

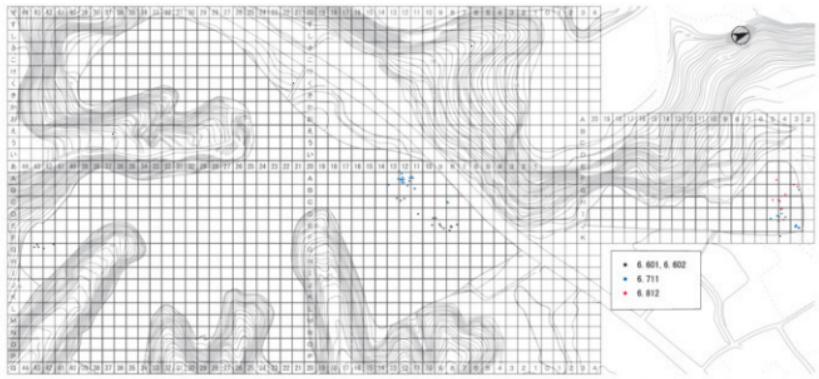
本類土器は、円筒形土器に押型文を施す土器を指標とする。また、文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず、1種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては、口唇端部に平坦面を形成し、口縁部が直行することが指摘できる。また、脣部最大径が脣部上端に位置し、脣部形態が直線的で、底部は平底となるのが特徴である。これらの特徴は、第3群土器第1類土器第3タイプ土器の特徴と共通が多いことを指摘できる。

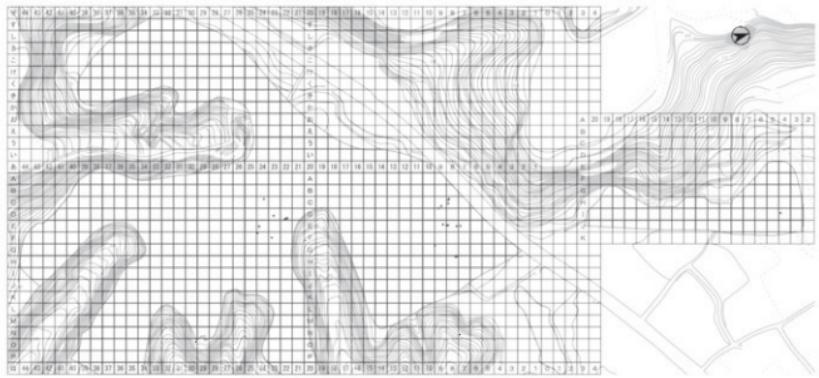
施文の特徴としては、口縁部文様帯から脣部下端部まで脣部文様帯の外面全面に、縱位方向あるいは斜位方向の格子目印型文を施するのが、本類細別の指標である。また口唇部文様帯と口縁部文様帯内面とは無紋帯となることが指摘できる。

調整方法としては、内器面では、口縁部から底部にかけて直立工具によるケズリ調整を行った後に、木製工具による横立方向あるいは斜位方向のナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を最終調整とする土器が多数を占めることが挙げられる。

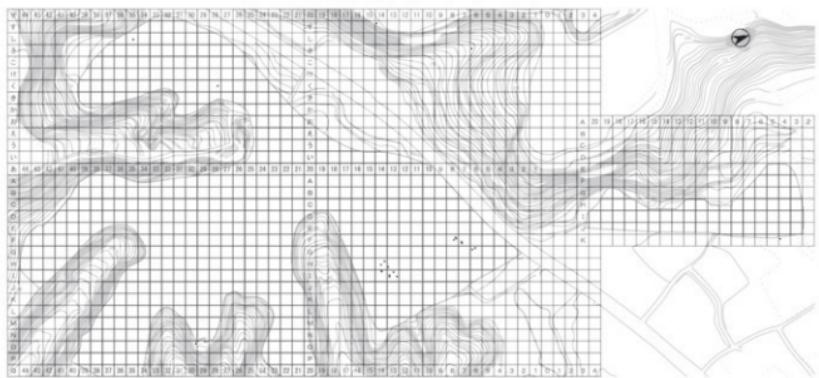
本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石、雲母



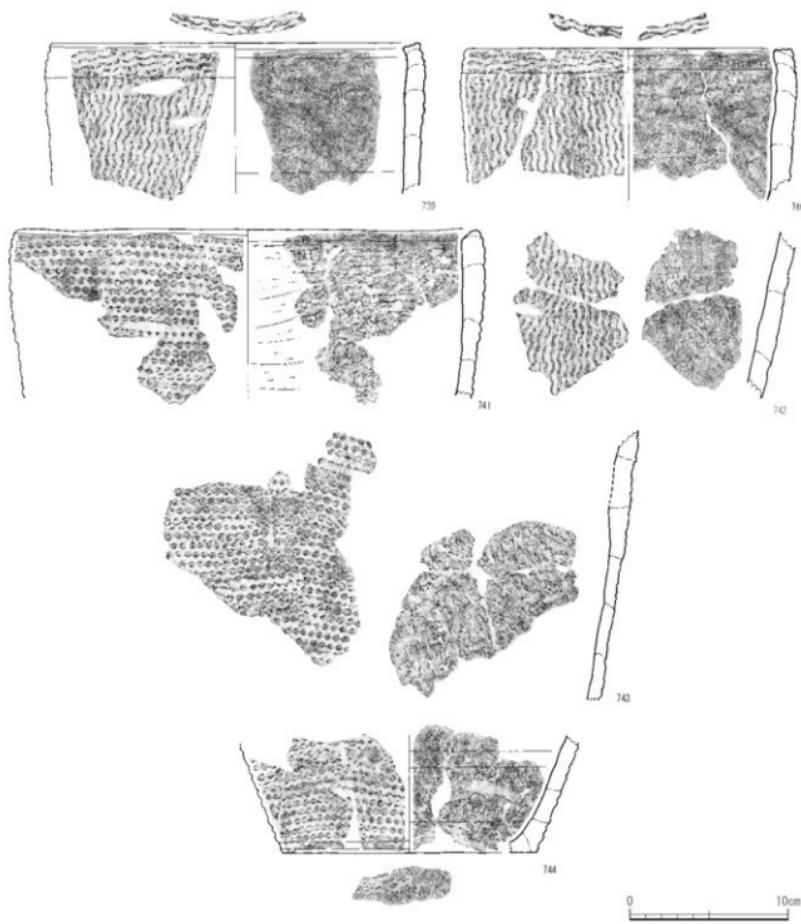
第336図 縄文早期土器分布図46 (6.6群土器/6.7群土器/6.8群土器, 1/4000)



第337図 縄文早期土器分布図47 (7.1群土器, 1/4000)



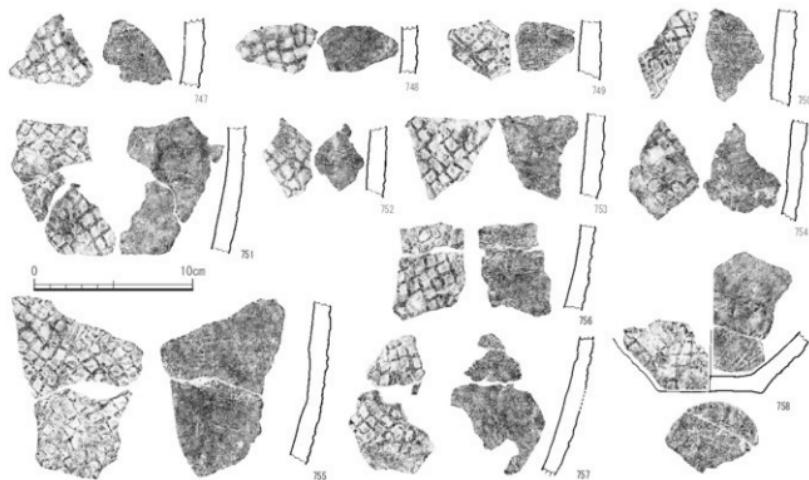
第338図 縄文早期土器分布図48 (8群土器, 1/4000)



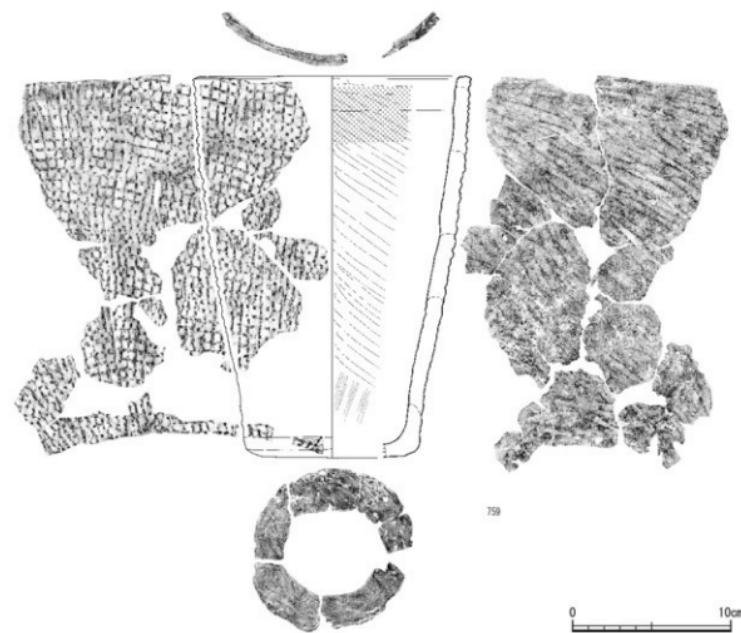
第339図 純文早期土器実測図 (112) (6.601群土器/6.602群土器/桙木調査区出土)



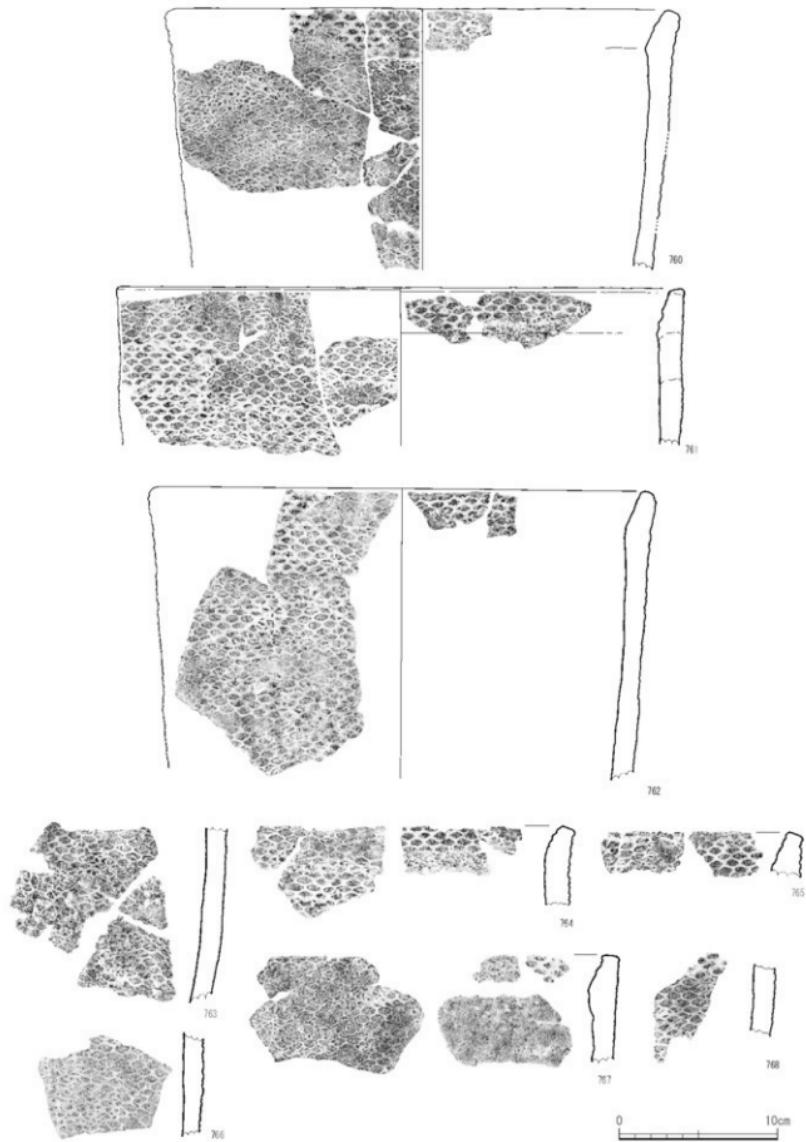
第340図 純文早期土器実測図 (113) (6.602群土器/耳取調査区出土)



第341図 縄文早期土器実測図（114）（6.711群土器/耳取調査区出土）



第342図 縄文早期土器実測図（115）（6.711群土器/桐木調査区出土）



第343図 純文早期土器実測図 (116) (6.812群土器/耳取調査区出土)